

# ～Thank you～

谷地南部小学校  
校内研究日より  
2023. 7. 31  
No.8 文責 菅野

## 鈴木貴子先生をお招きして

夏休みに入って山形大学から鈴木貴子准教授をお招きして、「高校・大学入試がどう変化しているか、小中学校でどんな学習が求められるのか」についてお話していただきました。

実際に山形県や他県で出題されている高校入試の問題を見ました。国語の作文の問題では、自分に必要な情報を選択し、どちらの段落から記述するかさえも高得点のカギとなり、自分で考えて進めなければ



ならない形式でした。また、大学のAO入試の定員も増えています。内容も以前とは変わり、特に「思考力・表現力・判断力」が求められるようになっているそうです。

このような変化を見ると、やはり自分の考えを持ち、必要な情報を取捨選択する経験を学校で行うことがとても大切であることが分かります。そのためには、例えば、「誰にどうやって伝えるか」を子ども達にゆだね自分で決めさせて、インプットではなくアウトプットできる経験をたくさんさせなければいけないと感じました。子どもが授業の中心にいるような、子どもにゆだねるということがいかに大切か学ぶことができました。

そして、毎日いろいろな学校を回り授業研究会に参加している貴子先生と2年国語「スイミー」の3の場面はどんな発問がいいか皆さんで考えました。いろいろな考えが出た後、貴子先生のお考えを聞きました。音読後に「スイミーは今どんなことをつぶやいているか」という発問をすると、子どもは教科書本文からイミーの気持ちを想像できるのではないかと教えていただきました。

子どもが授業の中心となるためには、授業開始5分をいかに子どもがたくさんしゃべれるようにするかがカギになるそうです。そのためには、発問の順番を変えたり、シンプルな発問に変えたりするだけで良いんだという貴子先生の言葉がとても心に残りました。

